

この度、エネルギー問題に発言する会（以下、エネルギー会と略称）の会長に就任しました金氏 顯（かねうじ あきら）です。エネルギー会は2001年10月10日に、長年エネルギー産業の実務に携わってきた20人の発起人で発足しました。その設立趣意書には、我が国と国民生活の根幹に関わるエネルギー、特に資源に乏しい我が国にとって原子力は将来とも基盤エネルギーとして、また地球温暖化抑制の面からも重要との認識のもとに、多岐にわたるエネルギー問題に対して多様な意見を社会に発信していきます、と記されています。



以来約20年間、様々な発言、多様な発信活動を代表幹事のもとフラットな組織で活動してまいりましたが、昨年10月の2050年カーボンニュートラル宣言を機に我が国のエネルギー政策の方向が脱炭素かつ再エネ偏重に急変しようとしています。そこでエネルギー会の原点に立ち返りより強い発言、発信とすべく会則が改訂され、会長、副会長職が設けられました。

私は1960年代後期の原子力の草創期に三菱重工業に入社、原子力プラントの設計、建設に30年以上携わってきました。第一線を退いたのち企業で培った知見、経験を社会へ還元したいとの思いで、2004年10月に入会しこれまで様々な活動に参画させていただきました。その間、2005年に始めた学生との対話会を日本原子力学会の活動とすべく2006年にシニアネットワーク連絡会（SNW）設立に携わり代表幹事に就任、2012年にはSNW代表幹事を退任し、当会の代表幹事を林勉様から引き継ぎ2016年まで務めました。以降も一会員として両会の活動を継続しております。

2011年3月11日の東日本大震災時の東京電力福島第一原子力発電所事故以降、原子力界を取り巻く環境が一変しています。しかしながら事故を真摯に反省し、安全性を向上した原子力は我が国にとって将来もかけがえのないエネルギーであることを科学技術的知見を基に社会へ発言していくことは私たちエネルギー会の責務であります。

今や会員は 300 名を超える大所帯になりましたが実際に活動している会員は少なく、また平均年齢も年々高齢化しています。”同志を募り“、“多士済々”の皆様とともに”艱難辛苦”しながらも“和気藹々”と“初志貫徹”して参りたいと思います。どうかご指導、ご鞭撻、そしてご協力を賜りますようお願い申し上げます、会長就任の挨拶といたします。